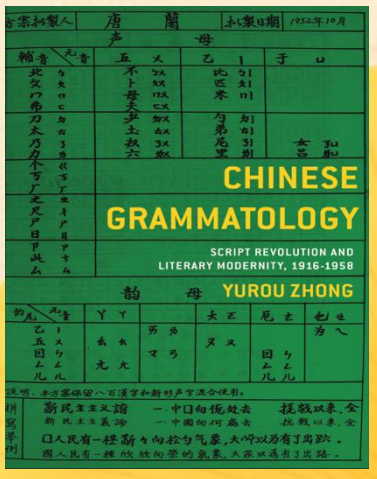
【書評会】音声中心主義の二律背反：鍾雨柔『漢字革命——中国語文現代性的起源（1916-1958）』をめぐって

20世紀中国の文字改革運動について、音声と文字の関係などに注目しながら、20世紀の歴史的変動の中において再検討したZhong Yurou（鍾雨柔）先生の著書を対象として、中国の文字改革運動を東アジアの視点から捉え直す書評会をオンラインで開催したい。



評者：林　少陽（マカオ大学）
　　岩月 純一（東京大学）
　　陳　　希（中央大学）
司会：鈴木 将久（東京大学）

日時：2024年11月29日（金）
　　11:00-13:00（日本時間）
場所：Zoom（事前登録）
言語：中国語

https://u-tokyo-ac-jp.zoom.us/meeting/register/tZMudu-sqDIuEtTWoMVeFwoGGSCgmiRY6Dsx

主催：科研費基盤研究（C）「魯迅作品日本語翻訳の総合的研究」
共催：東京大学東アジア藝文書院（EAA）
　　科研費研究活動スタート支援「中華民国初期における標準音の成立過程」